

## 八王子市立宮上小学校 学校経営報告書

学校教育目標

みなぎる力      やさしい心      考える知恵      見わたす世界

本年度の重点目標「考える知恵」

この学校教育目標の実現にあたり以下の3点を「目指す学校像」とする。

右図の様に、①基盤→②中核→③理念と三層構造となっている。

① 安全・安心で信頼される学校【学校の基盤】

② 学び合い、知徳体を高め合う学校【学校の中核】

③ 生きがいとうむ学校【学校の理念】

**【目指す学校像の構造】**

### 1 「安全・安心で信頼される学校」について

以下は、11月（2回目）に実施した保護者アンケートの結果である。

（数値は%）

【1あてはまる 2ややあてあまる 3あまりあてはまらない 4あてはまらない 5わからない】		1	2	3	4	5
1	学校の経営方針を知っている。	91	0	0	9	0
2	学校が力を入れているコミュニティスクールの取組について知っている。	94	0	0	6	0
3	本校が宮上中学校と一緒にいる取組について知っている。	74	0	0	26	0
4	学校は、子どもたちが安心・安全に過ごせるように、避難訓練などの安全管理に取り組んでいる。	98	0	0	2	0
5	学校は、子どもが自分の大切さ、他の人の大切さを認め、行動することができるような教育を進めている。	59	34	4	1	2
6	学校は、いじめの未然防止への取組、いじめの早期発見、早期対応など、いじめを許さない学校づくりに取り組んでいる。	59	31	3	1	6
7	子どもの学級は、授業や学校行事に意欲的に取り組むよう、指導が行われている。	78	20	2	0	0
8	学校は、授業において説明、板書、発問、視聴覚機器（ICT 機器）の活用などの工夫に取り組んでいる。	65	25	5	0	5
9	学校の、子どもの学習活動に対する評価は、適切・公平である。	69	27	1	0	3
10	学校は、子どもたちがよりよい学校生活を送れるように、生活目標を設定したり、きまりを守ったりする指導を行っている。	68	26	2	0	4

11	学校は、子どもの将来の進路や職業について適切に指導している。	57	34	3	0	6
12	学校は、学習環境の整備や清掃活動に取り組んでいる。	58	32	2	1	7
13	学校は、保護者に対して、適切に情報提供している。	73	24	2	1	0
14	学校は、特別支援教育を充実させ、個に応じた支援の工夫を行っている。	65	26	2	0	7
15	家庭では、子どもと学校の話をよくしている。	55	40	2	2	1
16	家庭では、子どもの生活習慣の定着に努力している。	52	40	6	0	2

全16項目中1項目(3)を除く15項目において「1(あてはまる)又は2(ややあてはまる)」の肯定的評価が併せて90%以上であった。このことから、保護者の皆様の学校に対する安心感・信頼感は概ね高いと考える。特に、「4 学校は、子どもたちが安心・安全に過ごせるように、避難訓練などの安全管理に取り組んでいる。」の項目で「1 あてはまる」と回答した方が98%、「13 学校は、保護者に対して、適切に情報提供している」の項目で「1 あてはまる」と回答した方が73%、「2 ややあてはまる」と回答した方が24%、合わせると97%が肯定的評価をしてくださったことは安心、信頼につながると考える。

一方、「3 本校が宮上中学校と一緒に進む取組について知っている。」は26%、約四分の一の方が「4 あてはまらない」と回答している。この取組については、そのことを知っているかどうかを質問していることから「あてはまらない」つまり「知らない」という保護者の方が多いと考えられる。それでも、「1 あてはまる」が74%と7割を超えていることから、関わりのある学年とそうでない学年で認知に差が生まれているのではないかと考える。小中一貫の取組の発信を強化していきたい。

また、「11 学校は、子どもの将来の進路や職業について適切に指導している。」の項目は、特に高学年においてキャリア教育を積極的に行い(企業や様々な職業の方々を多く招き、話を聞くだけでなく職業体験を行ったり、学校の近くにある企業に見学に行ったりした)、またそのことを保護者の皆様に発信したことが、高評価につながったと考える。

また、「6 学校は、いじめの未然防止への取組、いじめの早期発見、早期対応など、いじめを許さない学校づくりに取り組んでいる。」については、肯定的評価が90%であった。本校では全教職員が「いじめは絶対に許さない」「絶対に守り抜く」という姿勢で日々の教育活動にあたっていることはもちろん、毎月1回全ての子どもにいじめアンケートを実施し、またいじめ対策委員会(毎週木曜日定例会実施)において情報共有や対応策の検討を行ってきた。また、児童や保護者から相談があった場合にはその都度臨時のいじめ対策委員会を開き、即時対応をしている。それら、いじめ対策委員会の取組や教員のいじめ研修の実施について、その都度、学校ホームページにて、情報を発信しており、保護者の方々の理解は増してきていると考える。いじめ対応は子どもたちが安心して学校に通うために特に重要なことであるので、今後も教職員一丸となりしっかりと進めていく。

自由記述欄には、次のような言葉をいただいた。

「非常に丁寧に子ども達の成長の助けになるような配慮をさせていただいていると実感しております。保護者としても、もっと協力できたら嬉しいな、と思いつつ、色々難しい面もあるのかもしれないな…と推測しています。子どもたちの学校生活が健やかで豊かなものになっていると感じおり、心からの労いと感謝の気持ちでいっぱいです。」

「大変お世話になっております。 なごやか教室でのきめ細かいご指導にも、在籍クラスでの対応にも大変感謝しております。そこまでしていただくなくても大丈夫です。と思うくらいです。先生方のご負担を増やしてしまい申し訳なく思う毎日です。 休み時間、本気で遊んでくれる先生に出会えたことは、子どもにとってとても幸せなことだと思います。いつもありがとうございます。」

このような保護者の方々からの指摘は、我々教職員にとって有難く励みになるものである。

今後ともより一層充実した教育活動を展開していく。

一方、次のような指摘をいただいた。

「子どもの情報や配慮については学年内で共有し、来年度クラス替えがあった際に子どもたちが困らないようにしていただければと思います。」

「冬の体育の服装ですが、短パンの下にレギンスなどどうでしょうか?今決められているようなジャージのズボンを使用する頻度が少ない上、直ぐに買い換えが必要になります。レギンスだと費用も安いですし、便利で良いのではと思いました。」

「行事などの持ち物や日程をお知らせするのが遅く、事前準備がしにくい。もう少し早めに連絡してほしい。」

これらのご意見も含め、改善できることは見直しを行い、より良い学校づくりに生かしていく。

## 2 「学び合い、知徳体を高め合う学校」について

### (1) 保護者アンケートより

先の保護者アンケートの項目 5～9 が「学び合い、知徳体を高め合う学校」に特に関わる項目であると考え、全ての項目において 90%以上、肯定的な評価をいただいた。概ね高い評価をいただいたと考えるが、今後も校内研究や OJT 研修会はもとより、市の公立小学校教育研究会をはじめとする学校外の研修会にも積極的に参加し、教師がその力量を高めていくために学び続ける姿勢をもち続けることが大切であると考え。

### (2) 教員による内部評価より

教員による内部評価において、「学び合い、知徳体を高め合う学校」に特に関わる項目について、「とてもできた、できた」と回答した割合は、それぞれ次のとおりであった。

- ・教育目標の重点である「考える知恵」の育成が図られている……………96%
- ・児童の学習意欲を引き出し、基礎基本の定着とともに学力の向上が図られている……………95%
- ・落ち着いた学習環境づくりができて……………95%
- ・児童のつまずきに合わせた指導ができて……………100%
- ・児童の様々な課題に応じた具体的な手立てが講じられている……………91%
- ・校内研究「主体的に取り組む児童の育成」の成果は日常の教育実践の場に生かされている……………95%
- ・道徳授業の指導を通して、道徳的実践力の育成が図られている……………64%

全体的に肯定的評価が高いが、道徳的実践力の育成という面で課題意識をもつ教員が多い。道徳の授業だけでなく、別様を意識させ意図的に教育活動全体を通して、道徳的実践力を育むことができるよう改善を図っていく。

### (3) 八王子市学力定着度調査より

12月に4年生以上で実施された八王子市学力定着度調査結果における目標値の達成率について市平均と比較すると次の通りであった。

	国語 (%)			算数 (%)		
	市平均	本校平均	差	市平均	本校平均	差
4年生	65.9	79.1	+13.2	72.4	77.3	+4.9
5年生	66.4	68.1	+1.7	62.5	80.9	+18.4
6年生	65.0	70.2	+5.2	69.4	75.0	+5.6

達成率が全ての学年と教科において市平均を上回っており、一定の成果は得られているが、目標値に達していない児童が、20%～30%いることを考えると、全ての児童に基礎学力を確実に定着させていくために、個々の教員が授業改善を図り続けることはもとより、チャレンジスタディ、

算数補習、1 学年担任による 5・6 年算数の T2 補助の取組を計画的に行い、丁寧な個別指導を充実させていく。

#### (4) 校内研究より

今年度の校内研究は「主体的に学習する児童の育成 ～伝え合う活動の工夫を通して～」の主題のもと取り組んできた。12 月に児童に行った意識調査の結果（肯定的評価の割合）は次の通りであった。

- ①学習にすすんで取り組んでいる……………93%
- ②最後まで学習に取り組んでいる……………93%
- ③問題解決のために、いろいろな方法で試している……………87%
- ④学習の見通しをもって取り組んでいる……………84%
- ⑤その日の課題にそって学習をしている……………92%
- ⑥学習したことを生活や他の学習に生かしている……………87%
- ⑦学習の中で近くの人やグループで話すことが楽しい……………91%
- ⑧学習の中で全体に向けて話すことが楽しい……………72%
- ⑨学習の中で友達の話聞いてよかったと思っている……………94%
- ⑩学習の中で考えを伝えてよかったと思っている……………87%
- ⑪文章を書くのが楽しい……………76%
- ⑫文章を読むのが楽しい……………81%
- ⑬作品（図工、音楽、体育など）をつくるのが楽しい……………94%
- ⑭作品（図工、音楽、体育など）を見るのが楽しい……………92%

全項目で肯定的評価が高く、3 年間同じ研究主題で継続した研究を続けたことが、教員の指導の仕方や児童の取り組み方の向上につながっていると考える。また、⑨、⑩の項目が高かったことから、他者が表現したことを聞くことも伝える活動において重要であり、その部分において一定の成果があったと考えられる。

一方、特に⑧、⑪は自ら表現することに関する項目であり、この項目の肯定的評価が 70%台であったことは昨年度に引き続き課題となった。話すことについての力は付いてきているので、相手意識や目的意識をもたせることや、今後は書くことにも焦点を当て、自らの思いや考えを表現することの経験を積ませることによって、より活発な伝え合いや学び合いにつながるよう指導の改善を図っていく。

#### (5) その他

普段の学習活動はもとより、体験的な学習や外部講師を利用した活動を実施してきた。

まず、今年度は、文化庁の芸術家派遣事業を受けることができた。内容は現代舞踊（ダンス）で、5 年生 6 年生がプロのダンサーの方々を講師にお招きして、3 週間にわたり、3 回授業を受け、最後にはチーム毎に工夫した発表をステージ上で披露した。この授業を通して、講師の方々は子どもたちに夢をもつことの大切さや挑戦することの大切さ、物事に取り組む姿勢等についても熱く語りかけてくれた。この体験は、子どもたちにとってたいへん貴重なものとなった。

3 年生の社会科の学習では、地域の安全について学ぶ単元で、実際に南大沢署の警察官を講師に授業をしていただいた。仕事内容や警察官の装備などについて、話だけでなく、実物を見たり触れたりすることで、警察署の働きについて、実感をもって理解することができただけでなく、もっと調べてみたいと、興味や関心を広げることができた。

4 年生の総合的な学習では、八王子市役所文化課学芸員の方々を講師にお招きし、「まきびしづくり体験」を行った。八王子城跡から発見された「まきびし」から八王子の歴史や昔の人々の暮らしなどを映像資料や実物を通して学び、その後、「まきびしづくり体験」をして、作った「まきびし」をお互いに見合った。「まきびしづくり」を通して、八王子城といった市の史跡や八王子の歴史について興味や関心をもつ大きなきっかけとなった。

「学校 2020 レガシー」の取組として、全校でポッチャに取り組んだ。体育的行事委員会の企画により、兄弟学年毎にポッチャ週間を設けて取り組んだが、劇的な場面、盛り上がる場面が多数生まれるなど児童も楽しく、そして意欲的に取り組むことができた。また、特別支援学級及び特

別支援教室においても学習にポッチャを取り入れることにより、児童のコミュニケーション力等の向上につながっている。

キャリア教育は、学校に多くの企業・職業人の方々をお招きして6年生がお話を聞いたり職業体験をしたりする機会を設けた。また各学年の社会科見学はもとより、学校の近くにある企業に5年生6年生が実際に足を運び、見学・体験をさせていただく機会も設けた。これらの体験的な学習は、子どもたちが自分の将来を考えるための貴重な機会となったと考える。

漢字検定について、本校を会場として実施した。学校運営協議会主催事業・小中一貫教育事業ということで、学校運営協議会の委員が中心となって運営を行い、保護者・本校教職員の力も借りて実施することができた。今年度は1月25日（土）に実施したが、本校からは94名の児童が受検し、さらに宮上中学校の生徒25名が受検した。宮上中学校とは小中一貫教育で様々な取組を連携して行っているが、この漢字検定もその取組の一つとして今後も継続していく。

### 3 「生きがいをうむ学校」について

「生きがい」という言葉の意味を辞書で調べると「生きることの喜び・張り合い」と書かれている。つまり周りの誰かから判断されるものではなく、それぞれ個々の人間が「励み」や「心の支え」になるものということになる。では学校における子どもたちの「生きがい」とは、何なのかを考えたとき、それは、授業における一人一人の子どもたちの「できた!」「分かった!」という実感や学校生活における「役に立っている」「必要とされている」という経験により生まれるものではないかと考えた。

そこで授業においては、「学び合いのある」学習活動を行うとともに、一単位時間の授業で、一人一人の子どもたちが、「何が分かるようになったのか」「何ができるようになったのか」を確認・実感できるよう、授業の終末に「振り返り」の時間を必ず設定するよう指示してきた。その結果、八王子学力定着度調査では、高い正答率を上げており、子どもたちの「できた!」「分かった!」ことの一つの現れであると受け止めている。振り返りの方法や指導技術等、課題はあるが次年度に向けて、改善を図っていく。

また学校生活においては、クラブや委員会活動、児童会活動、各クラスの学級活動、たてわり班活動や学校行事をはじめとする活動を行う中で、子どもたちが自分たちで話し合い、企画し、考えたことを実現する経験を積み重ねてきた。その中で学校や学年・学級の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする姿や適材適所で自分たちの能力を生かす姿が多くみられた。それらの姿は、まさに「役に立っている」「必要とされている」との実感につながる姿であり、何より笑顔で楽しみながら活動に取り組む子どもたちの様子を見てみると、それはまさに「生きがい」につながっていると考える。次年度、子どもたちから特別活動等についてのアンケートを取り、より根拠をもって結論付けられるようにしていく。

### <最後に>

今年度の宮上小学校の学校経営方針にあるように「安全・安心で信頼されること」を基盤とし、「学び合うこと」を中核としながら、子どもや教職員にとっての「生きがい」をうむ学校となるよう保護者や地域の皆様の助けを得ながら、力を尽くしてまいりました。これからも教職員一同、知恵を出し合い、工夫して教育活動を進めてまいりたいと存じます。

令和6年度、八王子市立宮上小学校のことを大切に思い、惜しみなく力をお貸しくださった皆様に心から感謝申し上げます。これまで37年間紡いできた宮上小の伝統を大切にしながらも、より良い学校になるべく、誠心誠意尽くしてまいります。今後とも宮上小学校へのご理解・ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。